

令和6年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（中京もえぎ幼稚園）

教育目標

たくましく心豊かな子どもの育成

～主体的に環境に関わり、好奇心・探求心豊かに夢中になって遊ぶ子どもの育成をめざして～

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月17日	中京もえぎ幼稚園学校運営協議会
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・ 幼児期において、遊びを通して思考力が育まれていくプロセスを追う。また、子どもの“ねがい”と教師の意図が絡まり合い、環境構成や援助を行う遊びのプロセスをドキュメンテーションなどにより可視化する。
- ・ 本研究と架け橋プログラムの研究と関連させ、前年度までに作成したカリキュラム検討をし、思考力の育成で幼児期に大事なことを明らかにする。
環境構成や援助について、小学校の教員や地域の幼児教育施設とともに語り合う

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子どもの姿の変容や日々の保育実践
- ・「思考力」についての保護者アンケート結果
- ・外部への研究成果の発信回数や外部からの意見

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">子どもの“ねがい”から生まれた遊びを教師と共に深め、広げていく中で、幼稚園全体にその遊びと“ねがい”が伝播し、子どもそれぞれの学びにつながるということを事例から読みとることができた。「幼稚園生活を通して興味・関心がひろがっていると思いますか」大変そう思う・そう思う 98.9% 「感じたり気付いたりしたことを共感する機会をもっていますか」〃 98.9% 「自分でしようと考えていることを見守ったり、一緒に楽しんだりしていますか」〃 100%「ねがいの伝播」テーマにを「ソニー科学する心」に論文としてまとめ提出した。講座や小学校との合同研修会等の機会に、幼保小の架け橋プログラムの取組で自園の取組を発表し、協議した。また保育の公開も行い、主体的に子どもが生活することが大切なことが改めて分かった等のご意見をいただいた。保育園との交流を通して、実際の子どもや保育環境について話し合うことができた。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none">去年度検討した「可視化」しやすい事例の書き方から、更に教員が創意工夫していく中で、伝わりやすい事例の示し方を検討し論文にまとめることができた。各学年にとっての「思考力とは？」について事例を通して読み解き、その特徴について共通理解することができ、また、幼稚園での子どもの“ねがい”が伝播して、更なる学びの可能性があることがわかった。ICT 機器を利用して動画や写真で研究保育の振り返りをすることで、子どもの姿を共有することができ、分析することができた。保護者アンケートでも、子どもが主体的に考えて行動することに重要性を感じられる結果となり、教員からの日頃の大切にしていることが伝わっていることがわかり、今後も共に子どもたちの思考力を共に育てていく取組は必要と感じられた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">更に学年としての事例検討を深め、思考力の育ちの道筋を明らかにしていくとともに、一人一人の育ちを改めて大切にみっていく。他の幼保施設との事例研究を率先して行い、幼児教育で大切なことについての共通理解を図っていく。保護者への研究内容の発信を意識して行うようとする。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none">子どもの姿の変容や日々の保育実践「思考力」についての保護者アンケート結果外部への研究成果の発信回数や外部からの意見他の幼保施設との事例検討やカリキュラムマネジメントの実践
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">研究を論文にして報告する等、がんばっている。小学校や保育園等、外部とも密接に連携してひろがっていることがよい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（2）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学前後に小学校と子どもの様子を伝え合い、子どもが安心して小学校生活を送れるように支える。 ・ 地域の保幼小を互いに参観し、研究保育・授業を行うことで、教員同士が互いの教育の理解を深める。 ・ 地域の幼保施設と合同で園外保育に出かけたり互いの園で遊んだり授業に参加したりして、子どもたち同士の継続的な交流を行う。 ・ 地域の小規模保育園と連携し、0～2歳の保育との連携を行う。 ・ 昨年度までに作成した架け橋期カリキュラムの見直しを行う。
(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 保育参観（参加）・授業参観を計画的に行い、相互の教育の理解。
- ・ 架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直し状況。
- ・ 近隣の就学前施設や小学校への発信・交流状況
- ・ 「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都御苑での交流や小学校のスポーツフェスティバルへの参加の取組の中で、子どもたちの小学校へのイメージは具体的になり、また保育園と子どもが園を行き来する交流も通して、他園の1年生になる子どもとも知り合え、安心感や期待をもつ姿が見られている。 ・ 架け橋プログラム御所南小ブロックの中で、小学校の授業参観に積極的に参加し、自園も保育を公開して、相互の教育の理解に努めた。 ・ 校内研究・園内研究に共に参加し、子どもの成長や援助・指導について話し合うことができた。 ・ 架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直しも行う方向で、幼保の会「にじっこ」を開催予定。 ・ 小学校や民間保育園との交流を実施し、また担任同士の話し合いや交流の事前の話し合いを行う中で、今年度も人が変わっても人間関係を築きつつある。 ・ 「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果「小学校との連携や交流をすることは子どもの育ちにつながっていますか」大変そう思う・そう思う 97.7%「幼稚園は小学校と

共に積極的に幼保小連携に取り組んでいると思いますか」大変そう思う・そう思う 98.8%
 保護者アンケート自由記述「他の小学校とのかかわりが希薄そうで心配」

自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> 交流や教員同士のつながりにより、子どもたちが小学校に対してとても身近に親しみをもつ姿が多くみられる。 日程調整が大変だという経験から、年度当初に計画をたてるよう努めた。互いの参観や行事の予定を考慮して積極的に参加していくことができた。 保育園と互いの園を子どもたちが訪問し共に遊ぶ機会をもち、一層近しい関係になるとともに、子どものみならず、教員にとっても保育環境を学ぶ良い機会となり、協議が深まる機会となった。 去年と同様カリキュラムマネジメントを行う方向で進めていくことができた。 小学校との連携の重要性は保護者に伝わっているが、内容やその意義をもう少し説明する必要がある。 小規模保育事業所の参観等を行い、0歳からの連携を視野に取り組めた。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 交流内容や事前事後の話し合いの充実 幼保のカリキュラムマネジメントの推進 架け橋プログラムの取組、意義等の保護者への発信
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観・保育参観の実施、相互理解 架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直し状況。 近隣の就学前施設や小学校への発信・交流状況 「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<p>小学校と幼稚園がとても積極的にかかわっていることが、小学校の雰囲気を変えたと思う。 1年生のクラスや先生が、変わった。保護者として、先生にも声をかけやすい。ちゃんと座ってなさいという感じでなく、授業も幼稚園からのアイディアなのか純など感じられる。 続けて連携していってもらいたい。令和7年度から全市で行われるということで、大変期待している。</p>

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(3) 預かり保育について

具体的な取組

- 日々保育を振り返り、個々の興味関心に応じ、やりたいことがゆったり楽しめる環境を整えたり、子どもの興味や発達、時期や季節等から遊びに新鮮さや変化も取り入れたりし年間を通して内容の工夫をする。
- 未就園児クラス（満3歳児）の預かり保育の提供の実施を始める。
- 担任、預かり保育担当教員、家庭との連携を密にとる。

（取組結果を検証する）各種指標

- 預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し
- 担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り
- 預かり保育の姿からの発信状況
- 「預かり保育」についての保護者アンケート結果

中間評価

各種指標結果

- 預かり保育への参加人数や支援が必要な場面が多く、個々の興味関心に応じ環境や時間を確保することが難しい状況がよく見られた中で、工夫して過ごすように努めた。
- 満3歳児の預かり保育については、小規模保育施設に実際にやって学ぶなどし、充実を図ることに努めた。
- 担任が実際に預かり保育に参加せざるを得ない状況も多々ある中で、共に保護者に出来事を伝えるなど工夫し「報連相」の徹底に努めた。

自己評価

分析（成果と課題）

- 場所が限られる中、できるだけ個々の興味関心が満たされるように工夫している。今後も支援の必要な場面も多い中ではあるが、園全体で子どもたちが保育後の生活をゆったりと楽しく過ごせるように創意工夫していきたい。
- 預かり保育の様子の発信が継続できなかったので、引き続き意識してしていく。
- 満3歳児の預かり保育について、参加者も増えてきた。子どもたちが、幼稚園に無理なく慣れていくように、全教職員が学び対応していく。小規模保育事業所との連携も継続し進めていく。
- 保護者アンケート「預かり保育での遊びを楽しみにしていますか」大変そう思う・そう思う 84.6% 自由記述「預かり保育のおやつの内容を見直してほしい」

分析を踏まえた取組の改善

- 預かり保育の内容の工夫を園全体で考える。
- 預かり保育の子どもたちの様子や遊びを発信する。
- 満3歳児預かり保育内容の充実を図り、実施周知に努める。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- 預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し、内容の工夫改善
- 担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り
- 預かり保育の姿からの発信状況
- 預かり保育についての保護者アンケート結果（満3歳児も含む）

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	・様々な要望もあるだろうが、今ある環境・条件の中で工夫して行っている。両親が勤めていても中京もえぎ幼稚園に通うことができる事が大きい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（4）子育ての支援に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談であるほっとチャットを行ったり、家庭教育講座等を開催したりし保護者の学びや情報交流の場を設定する。 ・未就園児クラス（満3歳児）への預かり保育提供の実施を始める。 ・未就園児の教育相談として、運営協議会や地域の方、元保護者・現保護者の方など子育てについての不安や相談、体験談、情報提供等を受けたり、話したりできる場作りや企画の提供を行ったり、未就園児クラスと在園児とのふれあいの場を設定し、子どもの育ちや発達を知る機会を設定したりする。また、保護者同士のつながりづくりに努める。 ・地域の小規模施設や就学前施設との連携に取り組み、保育参観をし乳児の育ちを学び子育て支援に活かす。
(取組結果を検証する) 各種指標

- ・未就園児教育相談への参加者数（親子参加・満3歳児参加）および意見
- ・未就園児教育相談担当者への聞き取り
- ・小規模保育事業所との連携状況
- ・未就園児教育相談についての発信状況
- ・「未就園児の教育相談」についての保護者アンケート結果

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ほっとチャットの参加者は増加し、保護者同士の子どもに関しての肩のはらないおしゃべりができる場となった。その中でそれぞれが得るものがある様子が見られた。 ・去年度まで午後から行っていた未就園児教育相談の実施時間（月曜日）を午前に変更したことで、利用人数が増加した。午前中の方が参加しやすい意見が多く聞かれた。

- ・周りに同年代の子どもが少なく、保護者同士も交流がなかなかできないという実態を聞き、保護者同士をつなぐ役割も果たすようにかかわった。
- ・公立幼稚園と小規模保育事業所の先生方と話し合う会を実施し、親交を深め、近隣の事業所の保育参観をし学ぶことができた。
- ・未就園児対象のミニうんどうかいでは、5つの小規模保育事業所の参加があり、80名を超える会となった。
- ・保護者アンケート「未就園児の教育相談うさぎ組・こぐま組は地域の子育て支援の場となっていますか」大変そう思う・そう思う 96.6%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ほっとチャットでは、気軽に参加できるように工夫し、参加が増え会話も弾むようになった。降園時間がまばらで、なかなか園の大切にしたいこと等を伝えにくくなっている中、大変貴重な時間となっている。
- ・未就園児教育相談は、登録者が増えた。継続的な参加も増え、担当者とのつながりや保護者同士のつながりが見られるようになってきた。
- ・幼稚園説明会等にはPTAの方が参加し、気軽に相談にのっていただいたが、普段の教育相談にも参加していただくようにしていきたい。
- ・複数の小規模保育事業所を参観し、学ぶことができ、連携も深まった。公園や園内では園児との交流も進めることができた。小規模保育事業所でも中京もえぎ幼稚園での交流について保護者との共有をしていただいている。引き続き交流・連携を深めていきたい。
- ・保護者アンケートでは子育て支援の評価も高いが、外部への発信が課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・教育相談の企画・発信の工夫
- ・小規模保育事業所との連携と満3歳児預かり保育の内容の充実

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・未就園児教育相談への参加者数（親子参加・満3歳児参加）および意見
- ・未就園児教育相談担当者への聞き取り
- ・小規模保育事業所との連携状況
- ・未就園児教育相談についての発信状況
- ・「未就園児の教育相談」についての保護者アンケート結果（満3歳児含む）

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・子育て支援を何をねらってするのか、保護者同士をつなぐためにどうしたらよいか、「自分も受け入れられている」「自分も入りたい」と保護者が思うためには、どんな教育相談の場であればよいか検討が必要になってくるのではないか。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園便りやホームページ等で幼稚園教育や幼稚園の活動、取組を発信する。 学校運営協議会の方や地域の方をゲストティーチャーとして幼稚園運営に参画していただき子どもや保護者と地域の方とをつなぐ。 地域の小規模保育施設や就学前施設、小学校とのつながりを広める。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育の発信状況 学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況と取組の発信状況 学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況 「学校運営協議会（もえぎティンクル）」についての保護者アンケート結果

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園便りやホームページ、インスタグラム等で幼稚園教育や幼稚園の活動、取組を発信した。 学校運営協議会の方をゲストティーチャーとして招き、地域の祭である祇園祭について年長児に向けて「祇園祭のお話会」を開催した。また、絵本ボランティアの方による絵本の読み聞かせに取り組んだ。 地域の方との取組・竹間 BASE で、子どものこいのぼりを竹間公園に飾っていただきたり、竹間 BASE オープニングの行事を園でたくさんの方の参加で行ったり、年長児が竹間公園にフジバカマの苗を植え育てる活動に参加したりしている。 保護者アンケート「学校運営協議会もえぎティンクルの活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」大変そう思う・そう思う 回答 97.7% 	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> もえぎティンクルや絵本ボランティアの方の顔写真を掲示して子どもたちに親しみをもてるようにした。「今日は○○さんが読み聞かせに来てくれる！おもしろいねん」と子どもたちが意識して楽しみにする姿が見られている。また保護者の意識も高まっていると感じる。 祇園祭のお話を身近な方から聞くことで、興味をもって鉢見学などを行うことができた。 竹間 BASE の取組に参加することで、竹間公園や地域の方々に親しみをもちつつあり、地域の方にも幼稚園へのご理解をいただいている。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園での子どもたちの具体的な姿や幼稚園の取組等の発信方法・内容を工夫していく

	い。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育の発信状況 学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況と取組の発信状況 学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況 「学校運営協議会（もえぎティンクル）」についての保護者アンケート結果
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 顔写真掲示で、幼稚園にかかわる外部の人たちに、親しんでくれているのはよい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策

（6）教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織的な園運営と勤務時間への意識改革 時間制限だけではなく、働き甲斐、働きやすさを園全体での追及 ICT 機器の効率的な活用による業務の軽減
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が自身の超過勤務時間の把握し勤務時間に対する意識を高め、計画的な業務改善を目指し、超過勤務時間の短縮や年休取得につなげる。 ICT を活用したアンケート回答や弁当注文集計など
	(取組結果を検証する) 各種指標

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の勤務時間への意識は高まっているが、様々時間が要する取組もあり、勤務時間短縮にはつながっていない。働き甲斐との働き方改革との狭間で一人一人が前向きに考えながら取り組んで
--	--

いる状況である。

・去年度アプリの導入で集計作業等、大幅に時間短縮となったが今年度特にICTでの改善は見られていない。

・年休取得に関しては、取得しやすい雰囲気をつくるように努めている。

自己評価	分析（成果と課題）
	・勤務時間短縮に効果的だったれんらくアプリであるが、内容が伝わっていない状況がよく見られ、玄関に掲示する等、工夫が必要となっている。
	・勤務時間については、管理職の超過勤務が課題である。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	・一人一人が納得する勤務と家庭生活を送れるように、教職員から聞き取りをする。
	・超過勤務時間の短縮や年休取得状況
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策